



いいこっつお

教育長のつぶやき

No.22

2025, 5/2

第1回栄村CS学校運営委員会を終えて

一昨夜、第1回目の栄村コミュニティスクール学校運営委員会が栄中学校で行なわれました。当村は以前から、小中一緒にこの会を開催し、小中のコーディネーターと共に小中統括コーディネーターも存在するという大変手厚い布陣となっていて感謝です。

さて、一昨夜も小中それぞれに学校長よりグランドデザインについて説明があり、その後、CS・総合的な学習・ふるさと学習等に関わる説明を各教頭先生よりしていただきました。

そのことより、まず、保護者の皆さんや村民は、栄小中が本年度から3学期制から2学期制に変わったということは御存知だろうか？また中学校の期末及び中間テストが年5回から2回(前期と後期の期末のみ)になったことを御存知だろうか？このことは学校としてかなり大きな変化だがあまり知られていない(or知らされていない)のかもしれないが、この改革はかなりの改革です。



さて、小学校に今年一番の重点は？とお聞きすると「地域学習で人と関わること」と返答されました。また中学校は、「主体＝自ら学ぶ意識」と答えてくれました。

私から、コーディネーターも含め各学校にお願いしたことは、「何のためにこの活動をしているか分からない子をつくらないでほしい。」ということでした。地域としっかりと繋がったり課題が見えなかったりする中で、まだ解決のための意欲も持たぬままに活動だけが過ぎていくようでは子どもたちに育つものが見えにくいと判断するからです。地域課題があればそれを解決するために自分の役割を感じ、できることを主体的にやろうとする、そんな子どもたちを育てたいと考えています。

そのためには、地域課題を自分の感覚で捉えていく必要があります。自分の足で移動し、自分の耳で話を聞き、自分の目でその状態を見て確認することが何よりも重要です。五感を働かせながら地域課題を把握できれば、その後の追究も自ずとリアリティーのあるものになり、目の前の課題を具体的に解決できるものになっていくはずです。そしてその課題に対する変化も自分自身で感じられるでしょう。

また、地域の方々が子どもたちと関わる時に、「子どもたちを何とか手助けしてあげなくては。」とか「こんなにも子どもたちのためにやっている。」といった“子どものために”という上下関係ではなく、“子どもと一緒に”とか“子どもと力を合わせて”という対等な心の持ち方や関わり合い方を大切にしていきたいという話もさせていただきました。

「自学共育」の考え方は、「自学」＝主体性と、「共育」＝協働性という認識はこの一か月で先生方にも大分育ってきましたが、その「共育」という考え方は子ども同士だけではなく、先生と子ども、地域の方と子ども全ての関わりの中で共通している視点でもあります。そんな総合的な活動やふるさと学習の活動が展開されるとそれぞれの生きがいが高まると共に、**自己有用感**も上がると感じているのですが…。

～明日からのGW後半、有意義な4日間になるようにお過ごしください～